

com. de みぬま No.2

発行日 2008年10月17日
発行者 みぬまで暮らす会(準備会)
住 所 さいたま市見沼区蓮沼782-5
NPO法人・くらしとお金の学校内
連絡先 (FAX) 048-687-6277
E-mail jimukyoku@kurakane.org

地域の茶の間 オープン!!

9月25日(木)第1回お試しの「ランチとおしゃべりの会」を開催しました。初めてのランチはメンバーの嘉成さんの手作りの食器にご主人の手作り料理。メニューは①うなぎちらしご飯、②ピーマンとジャコの煮浸し、③白菜と切り昆布の漬け物、④デザートはヨーグルトアイス。

うなぎチラシには自家製の紫蘇や野田まで行って取ってきた山椒、体に良い薬味が盛りだくさん。ヨーグルトアイスにはお手製のラズベリージャムが彩りを添えていました。

嘉成家は3年前に定年退職されたご主人が家事を担当されているそうです。「40年間、家族のために料理を作り続けてきたんだから、もう、卒業！」と役割を交代したそうです。でも、男性の料理って凄いです。手抜きなし、どころじゃなくて工夫がいっぱい！ただ、作る分量が半端じゃない。今回は他にお声かけをしなかったもので、集まった4名では食べ切れませんでした。

嘉成さんのお宅の食器はすべて嘉成さんの手作りだそうです。3年の経験とは思えないほどの腕前で、温かくて、ほのぼのとしていて食事が100倍おいしくなります。次回のランチには間に合わないけど、ランチ用の器を焼いてくれるそうですよ。お楽しみに。
(長沼 和子)



地域の茶の間 ご案内

「地域の茶の間」は、ゲストを囲んで、ランチと会話を楽しむ会です。ゲストには地域で配食サービスが続けてきた方、福祉施設で働いてきた方、見沼の自然を守る活動をされている方やケアマネージャーさん等を予定しています。

歳をとっても、障害があっても、この見沼区で最後まで自分らしく暮らし続けるために必要な仕組みを考え作り出していくための一歩です。木曜日の11時、ワンコイン(500円)ランチを楽しみに来ませんか？

場 所:見沼区蓮沼782-5

NPO法人・くらしとお金の学校内

開催日:11月6日/20日/12月4日



地域の茶の間事業は、シラコバト長寿社会福祉基金の配分を受けて実施しています。

特別養護老人ホーム「風の村」を見学して

緑の山道をくねくねと登ったり下ったり、ドライブ気分で林の中の十字路を右折したら、切り開かれた小高い原っぱに、落ち着いた佇まいの建物が待っていました。「風の村」と名付けたくなる自然環境、美味しい風が吹きすぎてゆきます。



木製ベンチのある広い玄関

福祉施設を多く手がけた評判の良い建築士の設計と聞いていたので、今回は主に建物に重点を置いて見学させていただこうと思って参加しました。雨の日を考慮した大きな屋根の車寄せから入った玄関は幅広く、両側の壁にスリッパの入った低い下駄箱が並び、真ん中に木製のベンチが据えられて、座って靴を履き替えられる安心設計。ホールからショートステイの個室に向かう廊下はロビー兼用でゆったりと造られ、左右はガラスの開き戸が並んで、樹木が植えられた広い中庭が望めます。中庭の樹々の間から二階の回廊と空が見えて大正モダンの別荘といった雰囲気でした。エレベーターで二階へ。個室6室から12室ごとにダイニングキッチンが設けられ、ユニット毎に入居者・職員・ボランティアで毎日の暮らしを営みます。見慣れた人がいつも身近にいて、部屋から一步出ると語らう場がある、という設計になっていました。

建物全体の印象は、木や珪藻土を多用して「落ち着いた空間」という感じでしたが、照明が暗いことが気になりました。気持ちを安定させる効果がある反面、活力を押さえてしまう要素にはならないのだろうか？入居者の9割の方に認知症状があると言われていたけれど…昼夜の区別がつきにくく、周辺症状が改善されないのでは？と思いました。車椅子用の流し台や手摺りの位置が低すぎるようにも感じましたし、トイレのドアがルーバーなので、トイレの中から廊下を通る人の姿が見えるので落ち着いて用を足すことができませんでした。何故わざわざそうしたのか？…設計者はすでに亡くなっておられるとか、設計の意図を説明していただくことができず残念でした。一階のデイサービスの部屋では帰宅時間を控えて皆さんで歌を楽しんでいます。玄関の混雑を考えて、私たちはひと足お先に失礼することにしました。（嘉成勝子）

ゆとりのある施設「風の村」

こんな山の中にあるのかなあ、と思うようなところに瀟洒な建物がありました。聞けば道路を造るだけで1億円もかかったとか。幅の広い廊下、ゆとりのある空間、いままで見たホームよりかなり経費が掛かっていると思われました。ユニットケアの特養は初めて見学しましたが、8畳ほどの個室は十分な広さで、電話や家具など自由に持ち込めるとか。高齢になると愛着のある物があると思います。これまで見学した特養では手荷物程度しか認めないところが殆どだったので、これは素晴らしいと感じました。有料老人ホームもいくつか見学しましたが、企業の独身寮を改築した所も新築の所もゆとりがなく、集まる場所も食堂や玄関先のロビーくらいしかない状態だったので（入居金3千万円以上の有料老人ホーム等は見学したことがありませんが）これは運営母体の資金力、経営理念の違いによるのかな、と思いました。

曇天のためか内部がやや暗いと感じました。晴天ならば大きなガラス窓からの陽光で明るいのでしょうか。夜間は明かりを増やすのでしょうか。ほとんどの入居者の表情が乏しく認知症の方と思われます。元気そうな方に話かけてみたらデイサービスの利用者で4時にバスで帰るとのことでした。

ロビーで若い男性が書き物をしていました。実習生で、3ヶ月の研修期間とのこと。それほどの長い研修は聞いたことがないので詳しく聞きたかったのですが、時間がなくて聞けず残念でした。（田口秀之助）



大きな屋根の車寄せ … 雨の日も大丈夫



落ち着いた内装のホール

システム(制度)と理想のミスマッチ? 特養・風の村

千葉県八街駅から車で10分、一般道から引き込んで造成された私道のスロープを上った高台に特別養護老人ホーム「風の村」はある。その私道の途中に風の村保育園の立て札が見えた。見学時間が1時間半に限定されていたので、建物の全体を見せて貰うことはできなかった。見学の終わりに施設長との質疑応答の時間があつたので、それを報告の替わりにしたい。大宮から往復7時間以上もかかったけれど、設立(2000年)から8年の足跡が垣間見えるタイムリーな訪問になった。館内を案内してくれたのは今年4月に施設長として着任された若い女性。それまでは在宅サービスの拠点責任者として働いていたという。

Q 1.5対1の人員配置は持続可能なのか? 一般の有料老人ホームなら「手厚い介護陣容がある」ということで入居一時金の他に平均4~5百万円は徴収している。

A 所得の低い方も多く、居住費も食費も基準額いっぱいなのでこれ以上値上げするわけにはいかないと思う。人手不足には対処しきれてはいない。

Q 元気な高齢者を入居させて、手伝ってもらったら?

A 2000年設立から8年間経過して、入居者のほとんどは認知症になり、重介護化して、介護者との協働で生活を支えていくことはできなくなりました。一時は病院のようでした。介護度の低い方を入居させると皆が元気になります、報酬が少なくなり運営に響きます。昨年度は元気な方を2~3名入居させました。元気な方がいると館内の空気が変わります。元気な入居者は自分のメールボックスへ手紙や新聞を取りに行き、そのニュースを他の入居者に聞かせたり、ご飯をとぎ、味噌汁を作り、香味を刻み、食事の介助も率先して担当して下さいます。

Q 県外の人も入居できますか?

A できますが、現在県内100人、県外100人が待機待ちです。

質疑応答から、赴任間もない施設長さんが「風の村」の現況に困惑している様子が見うけられた。

何年か前、訪問した新潟県の浦佐のデイサービスを思い出した。100年前の農家の大きながらんだ屋内で、寝たい人は座敷の畳でゴロンと転がって、板の間では車座になった高齢者が民謡や童謡を声を合わせて歌っていた。今思うと、浦佐の高齢者にはリフォームした古い家屋であっても住み慣れた空間が安心できるからゴロゴロしていたんだ。モダンな空間は誰にでもピッタリくるというわけではないのだなと。その人の生活の仕方、在り方から切り離したら抽象的な存在にしかならない。「風の村」の入居者も、しがらみを失った旅人のように見えた。自分の家ではなく高級ホテルの宿泊者のように見えたのだ。(長沼和子)



お庭も拝見...東屋や池もあり、自然いっぱい

「風の村」施設概要	
運営主体	社会福祉法人 生活クラブ (設立: 2000年2月)
連絡先	電話: 043-440-0301 Fax: 043-442-0367
所在地	千葉県八街市東吉田912-8 (JR総武本線八街駅よりタクシー10分)
特徴	全国に先駆けて全室個室化、ユニット化を実施した特別養護老人ホーム。21世紀モデルとも言われている。全国からの視察者も多い。(設計: 外山 義+(株) 双立デザイン設計事務所)
施設機能	特別養護老人ホーム(全個室・定員50人) / ショートステイ(全個室・定員7人) / デイサービス(定員30人) / 在宅介護支援センター / ケアプランセンター
建物の特徴	◆6つのユニット ◆全室個室 ◆普通のダイニングキッチン(普通の食器、自分の食器等) ◆4つの住み分け...それぞれの居場所、生活範囲の広がり ・パブリックゾーン(地域交流スペース「喫茶店アルルカン」)・セミパブリックゾーン(ホール、テラス)・セミプライベートゾーン(リビング)・プライベートゾーン(居室)

私の家はもと竜神の棲家??

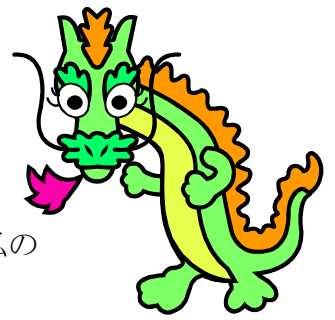
8月23日見沼区拡大区民会議において、郷土史家、長沢隆司さんの「ふるさと再発見！見沼の自然と歴史」の講演がありました。あまり地域の歴史には関心がなかったのですが、話が面白く聞き入ってしまいました。

長沢さん監修・製作の「見沼田んぼウォーキングマップ」を見て驚いた。なんと、竜神伝説スポットとして私の家のところに竜神のイラストが載っていました。つまり私の家は、もとは竜神の棲家だったのです。

住所は東新井となっていますが戸籍では海老沼です。埋め立てて住宅地にしたのです。

目の前は中山神社です。中山神社は寂れた感じですが、大宮氷川神社、浦和氷川女体神社の一直線上の中間にある由緒ある神社です。神社は高く台地になっていて、私の家は崖下で沼地だったのでしょうか。さいたま市の防災マップには、中山神社が震度4のとき私の家は震度5、とポツンと濃い点になっていました。いずれ棲家を奪われ、地下に閉じ込められた竜神が機会を窺がって暴れだすかも知れません。ウーム、恐ろしい。

(田口 秀之助)



さいたま・まちプラン市民会議が面白い!!

私たちは、さいたま・まちプラン市民会議にも参加しています。10月16日、第2回区別会議が行われました。見沼区のテーマは「自然環境を活かしたまちづくり」で、具体的には①コミュニティバス路線の見直し②地産地消によるまちづくり、を検討・提案することになりました。



彼岸花やコスモスが群生 …… 秋の見沼もいいね!

高齢になっても家に引きこもらず、緑の中に散歩に出かけたり、見沼の史跡巡りをしたり、市民活動に気軽に参加したりして元気に楽しく暮らすために、交通アクセスの確保は欠かせません。コミュニティバスが区内を隈無く巡回するように、路線の見直しと土日祭日の運行を提案していきます。

また、食物の国内生産率が著しく低下し食の安全が脅かされている昨今ですが、見沼区では、まだまだ沢山の農家が田畑を耕しています。見沼田んぼには各種団体の運営する市民農園もあります。せっかく見沼に住みながら、地元で採れる野菜やお米、果物を食べない手はありませんよね。地元の作物を食べることは田畑を守り緑を守ることに繋がり、フードマイレージ…Co2削減に繋がり、私たちの生活環境を健全な方向に向かわせてくれることでしょう。会議に参加している農家の方々とも相談を重ねて、区民の皆さんに、住まいの近くにある農産物の直売所の紹介ができる仕組みを提案していきます。

市民会議に参加していると、見沼の歴史や史跡のこと、屋敷林や河川のこと、生産緑地や都市計画のことなど、今まで知らなかったことを聞くことができ…それはもう、目からウロコの楽しさです。誰でも参加できる市民会議に来てみませんか？

(嘉成 勝子)